○ 住民説明会における意見等（久津間地区）

1. 日 時 令和元年6月27日（木）18時00分から20時25分まで
2. 場 所 岩根西公民館
3. 出席者 防衛省整備計画局、北関東防衛局ほか
木更津市企画部
4. 参加者 18名
5. 防衛省から説明資料に沿って説明後、以下のとおり質疑応答。

※【○主な質問等】【●防衛省の説明】【※木更津市の説明】

1. 木更津駐屯地への暫定配備期間について

- 暫定配備期間について明確にしてほしい。また、佐賀県と有明海漁協の協議の見通しを聞きたい。
- 陸自オスプレイについては、昨年8月、佐賀県知事から受入れ表明をいただき、現在、佐賀県と有明海漁協において、佐賀空港建設時に締結された公害防止協定で確認されている、『県は佐賀空港を自衛隊と共用するような考えをもっていない』旨の考え方の取扱いについて協議がなされているところである。当該協議の進捗に応じて、施設整備に係る測量や基本検討等を行うことができれば、工期がおおむね判明すると思われるが、現時点で暫定配備期間をお示しすることは困難である。
- 暫定配備の期間が不明な中、木更津市民としても判断のしようがない。防衛省からの妥協案として、17機の内、5機を木更津駐屯地に配備させてほしい、だとか、5年後に再度、延長をするのか否かの協議の場を設ける、といった案は出てこないのか。佐賀県がまとまらなかった場合、木更津駐屯地が恒久配備先となるのではないか。
- 島嶼防衛の能力に支障を来すおそれがあることや、オスプレイの整備・教育のためのインフラ整備も必要となることから、分散して配備する考えはない。我々としては、佐賀空港が恒久配備先であるとの考えに一切変更はない。

2. 木更津駐屯地を暫定配備先に選定する必要性について

- なぜ、木更津駐屯地が暫定配備先として最適であると判断したのか。他に候補地はなかったのか。
- 説明資料に記載のとおり、①オスプレイの運用に必要な滑走路長約1,500mを有していること、②オスプレイ17機を配置できる広さを有していること、③既存配備機の運用への影響を最小限にとどめることができること、④既存の施設が利用可能であり、できるだけ早期に運用基盤として活用できること、これら4項目を満たす自衛隊の駐屯地・基地の中で水陸機動団の所在地である佐世保までの距離も考慮の上、木更津駐屯地が最適であると判断

をした。陸・海・空の3自衛隊の全ての航空基地を検討した結果である。

- 垂直離着陸が可能であるのであれば、滑走路は必要ないのではないか。固定翼モードで離着陸するのであれば、1,500mの滑走路が必要であるのか。
- オスプレイは固定翼モードでの運用を基本としていることから、約1,500m必要である。

- 要件を満たす航空基地の中で、佐世保までの距離が一番近いのが木更津駐屯地とのことであるが、佐世保までどのくらいの時間で飛行するのか。
- 木更津駐屯地から佐世保までは約1,000kmあり、単純に距離と速度から計算すると、オスプレイで約2時間、CH-47で約5時間かかる。

- 南西諸島は全長が約1,200kmであるとのこと、木更津駐屯地から佐世保までの距離を足すと、概ね2,200kmで、オスプレイの航続可能距離は約2,600kmであることを考慮すると、確かにCH-47よりは格段性能が高いことはわかるが、木更津からもっと近い基地から飛行すべきではないか。
- 防衛省としては佐賀空港が恒久配備先であるとの考えに変わりはない。木更津駐屯地への暫定配備は、あくまでも暫定的な措置であり、佐賀空港への配備と比較した場合、運用上一定の制約を受ける可能性があることは事実であることから、早急に佐賀空港にオスプレイを配備したい考えである。他方、何らかの情報を察知した場合、事に迅速に対応すべく、運用上の努力により対応する。

- 地元からの反対の声が少ないことも、暫定配備先として選ばれた要因の一つなのではないか。
- 繰り返しになるが、要件を満たす自衛隊の航空基地の中で、木更津駐屯地が水陸機動団までの距離も踏まえ、暫定配備先として最適であると判断した。決して、地元からの反対の声が少ないことを理由としたものではない。

- 水陸機動団と一体運用というのであれば、佐世保にオスプレイを配備すればよいのではないか。
- 佐世保（相浦駐屯地）には滑走路がなく、オスプレイの配備には適さない。

3. オスプレイの安全性について

- オスプレイが安全であるとのことだが、米軍が事故を起こした際、なぜ事故原因が知らされないのか。要するに情報開示が十分になされていないのではないか。

- 日米地位協定上、半年以内に事故原因の究明及び再発防止策を発表することになっていることから、全く情報開示がない、という指摘は当てはまらない。また、防衛省としても、その都度、事故の原因を検証しており、防衛省としてオスプレイは、安全な機体であると判断しているところである。

4. 生活環境への影響について

【騒音及び振動】

- 久津間の自宅で、木更津市の環境管理課が測定した騒音値と防衛省の資料に掲載している騒音値が異なる。ぜひ、騒音には配慮いただきたい。騒音問題の相談はどこに行えばよいのか。
- 仮に陸自オスプレイが暫定配備された後、騒音の影響が確認された場合は、木更津市とも相談し適切に対応させていただく。騒音の苦情については、北関東防衛局で承る。

- 防衛省の助成により、防音工事を実施した際、エアコンを設置していただいたが、10年経過したら耐用年数は切れる。エアコンの入れ替えをした家としていない家があるが、入れ替えをしていない家がほとんどである。このような状況を踏まえれば、オスプレイの受入れは論外である。
- 防音工事で設置した空気調和機器については、防音工事完了後10年経過し、かつ現に故障等をしているものが復旧工事の対象となるところ、その実施に当たっては申請を個人からしていただく手続きになる。申請していただいているにもかかわらず復旧工事がなされていないという事実があれば、確認をさせていただきしかるべき処置をとらせていただく。

- 時間に関係なく飛行し、上空を飛んだときにガラスや窓が揺れたりして、窓が開かなくなったこともあった。そういった窓ガラスの揺れも結構あるのではないか。
- 暫定配備後の影響については、木更津市と相談した上で、適切に対応させていただきたい。

- 木更津市とどのような相談をするのか。
- 周辺対策については、個人からの申請ではなく、自治体経由での申請となることから、その旨を申し上げている。

- 騒音に関し、防衛省が取り組む施策はどのような方法をもって市民に周知されるのか。あくまで暫定であるから我慢しろ、という回答では到底受け入れることはできない。
- 仮に暫定配備となった後、影響が確認され、防衛省が対策を行うこととなった場合は、木更津市を通じて周知されるものと承知している。

※ 回答方法について御質問があったが、防衛省に対しより詳細な説明や対応を求めた上で、文書で整理をして、例えば回覧文書等で周知できるようにして、区長様と相談させていただき、文書で報告させていただく。

【飛行経路】

- オスプレイも民家上空を飛行することになるのか。垂直離着陸が可能であることから、駐屯地から浮上し、そのまま海上へ向かって飛行すれば、騒音問題は軽減されるのではないか。
- 地元住民の皆様には騒音で御負担をお掛けしていることは重々承知しているところである。基本的には、海側である西側場周経路を飛行することとしているが、操縦士の判断により安全な飛行を最優先にするため、民家上空を飛行することはあるが、操縦士の判断で最も安全な飛行経路を飛行していることを御理解いただきたい。

- 平成7年頃に久津間地区と畔戸地区の住民を対象とした、防音工事の説明会があり、その際、基本的には久津間から畔戸に向けて飛行するとの説明があったが、今では、その飛行ルートが守られていない。自衛隊は国防のために働いており、災害派遣にも対応していただき、非常に感謝しているところであるが、地元を蔑ろにしないでいただきたい。
- 飛行経路については、陸上自衛隊に確認する。

- もう少し高度を保ってから海側である西側に曲がれば、騒音も少なく済むかどうか。
- 羽田空港の管制空域との問題もあり、高度に関しては制限があることから、現時点で確たることを申し上げることはできない。

- オスプレイの離着陸は風向きによって変わるものなのか。
- 航空機全般に当てはまることであるが、向かい風の状態で離着陸することになる。航空法上、基本的には、滑走路の整地の方向をもって離着陸することが前提となっているが、住民の皆様には御負担をなるべくかけないよう、同じ経路は何度も飛行しない等、部隊に申し入れる。

- 木更津駐屯地と羽田空港の空域はどのように分けられているのか。
- 高度等で区切られており、低いところでは約300mで切り分けられている。

5. その他

- オスプレイが配備されれば、CH-47はなくなるのか。
- 木更津駐屯地からCH-47が撤退することはなく、あくまで、オスプレ

イを暫定配備させていただきたい、ということ。

- すでに17機全ての機体を取得する予算を計上しているとのことだが、配備先が決定すれば、いつでもこの予算を用いてオスプレイ17機を取得できる、ということか。
- 一括購入、ということではなく、各年度に分けて取得していく。最終的に17機を導入予定ということ。

- 実際に機体を購入する際の予算措置するのか。
- オスプレイの機体取得予算は計上済みであり、今後、逐次導入されていく予定。

- 現時点で何機取得済みなのか。
- 現時点で機体は日本にはなく、米国本土で陸自オスプレイ5機を教育訓練に使用している。

- 来年3月には機体を日本に持ってくる、ということか。
- 来年3月というのは、オスプレイ部隊を新編したい、ということ。暫定配備の了解を頂けた場合、機体については、段階的に日本に輸送する予定である。

- オスプレイの暫定配備に伴い、引っ越しを決断した場合、国から何らかの助成金はいただけるのか。
- 一般に、騒音が酷い地域においては、移転措置という施策があるが、よほどの騒音、例えばジェット機の滑走路真下のような騒音が日常化されている状態でなければ難しいと思われる。
- ※ 御理解いただきたいのは、暫定配備されることはまだ決まっていない。防衛省からは、木更津市の理解が得られない間は、暫定配備をしないと伺っている。また、市としては、要請に対する回答を保留している。

【定期機体整備】

- 定期機体整備について、当初、『オスプレイは定期機体整備のため、どの程度木更津基地に飛来するのか。』という千葉県からの問に対し、北関東防衛局は『オスプレイは5年から6年に1度の定期機体整備が必要である。普天間基地に配備されている海兵隊のオスプレイが24機であることを考慮すると、おおよそ1年に5機から数機のオスプレイが木更津駐屯地に飛来する計算になる。』と回答している。ただし、現状、部品や人員輸送においてもオスプレイを使用しており、米軍機が頻繁に木更津駐屯地に飛来していることになるが、これは誰の了承を得て行っている行為なのか。

- 当時の説明は、普天間飛行場に配備されている機数と、定期機体整備の周期を単純に計算したものであると推測される。そもそも、木更津駐屯地は米軍施設であり、米軍は、日米安全保障条約上、日本国の施設及び区域を使用することが認められている。また、平成24年9月の日米合同委員会において、飛行の安全性を含め、MV-22オスプレイの我が国における運用に係る具体的な措置について合意しており、その上で、米軍による部品等の輸送手段については、米軍の運用に関する事項であることから、防衛省としてお答えする立場にない。
- 防衛省と米軍及び整備企業が取り交わした覚書には、木更津駐屯地の空域の使用は陸上自衛隊により定められた方針と手続きを踏まえて、米国政府の方針として、木更津駐屯地の標準運用時間に従い、運用時間外は陸自の支援が必要となる場合については、通常の調整措置を講じる。更に米国政府は、木更津駐屯地の場周経路の使用に関わる、陸自の普通機及び指示に従うとある。よって、米国が勝手に使用することはできないのではないか。
- 米軍施設である木更津飛行場としての運用として位置付けられていると考えられる。また、米国に何らかの申し入れをすることができるのか否かについては、この場で即答はできないが、持ち帰り確認する。

【木更津市への質問・意見】

- 海上自衛隊のヘリコプターが夜中の11時、12時まで低空で飛んでいる。自衛隊のモラルが悪いので、受け入れないでほしい。また、江川の場周経路下の土地に、なぜ野球場とかサッカー場とか作るのか。子どもたちの安全を考えていない。
- ※ 夜間飛行については、陸上自衛隊のヘリコプターか米軍機だと思われるが。海上自衛隊のヘリコプターが夜間飛行しているのかどうかは確認をする。
- この説明会をどのように考えているのか。ただ、久津間地区で説明会をしたと、もうこれで終わりですと、宿題はあつてないようなもの。他の地区でも色々問題はあつたと、今後全体説明会を考えているなら、そのときに話をしますと。それで終わりなのか。今ここで意見が出てものをどのようにフィードバックするのか。そのあたりをはっきりしてもらわないと、何のための説明会なのか分からなくなってしまう。
- ※ 本日いただいた御意見、あるいは質問等で、防衛省がきちんと答えていない、保留にした件については、市から防衛省に説明を求めていく。その結果については区長と相談させていただくが、回覧等によって報告させていただく。
- 暫定にしろ、受入れ済みにしろ、住民の方で諸手を挙げて賛成する方はい

ないと思うが、行政として、受入れ済み、あるいは受入れを検討することのメリット、デメリットをどのように考えているのか。それがあると、住民の方も参考になるのではないか。

※ メリット、デメリットということではなくて、要請があったので協力できるか否かの判断をこれからしていく必要があると考えている。国防に関することなので、要請は受けて、ただ協力できるかどうかは市民の皆様の御意見を伺いながら、市議会や千葉県と相談して慎重に判断していきたいと考えている。

○ 国防のことで要請があったから、前向きに検討しているということであれば、なおさら木更津市だけの問題ではないのではないかと。

※ 国防に関することなので、しっかりと回答をしなければならないということである。

○ 久津間地区を対象とした説明会は今日で終わりか。何度かこういった説明会を設ける予定はあるのか。

※ 一旦報告をさせていただいた上で、区長様との相談になるかと思うが、地区ごとの説明会以外にも、市民の方が参加できる説明会があるので、そちらの方に参加していただければと考える。

○ 報告とは誰にするのか。

※ 今後市が引き継いで、より詳細な説明を求めていく事項、また、対応を求めていく事項について、防衛省がどのように回答するのか、その回答について、市が十分ではないと判断した場合は、市が更に防衛省に対して説明を求めていく。その状況については報告をさせていただく。

○ 市と住民が一体となって、防衛省に説明を求めて、あとで反対だというばかりでなくて、もっと多くの住民に聞いてもらえるようなかたちの方が良いのではないかと。この1回で終わりではなくて、何回かやった方がいいのではないかと。

※ 検討させていただくが、区長様とも相談させていただく。

○ 近々か。

※ 今後、防衛省に求める事項等について、どの時点で回答をいただけるかだとは思うが。1週間や2週間ということではいかないと考える。